

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部
令和5年7月発行

7月の自立活動だよりは、中学部の知的障害学級（通称：1ブロック）より3年生、肢体不自由重複学級（通称：2ブロック）より3年生の自立活動の取り組みについて紹介します。

今年度の中学部は1ブロック55名、2ブロック11名の生徒が在籍しています。（令和5年7月現在）自立活動の授業形態は、子どもの実態や目標に応じて個別または小集団で行っています。目標を達成するために自立活動の内容を関連づけて指導内容を考えて取り組んでいます。

【1ブロックの取組】

3年生 Aさんの事例

☆ねらい

『心理的な安定』

- 好きな活動を自分で選んで伝える。

『人間関係の形成』

- 自分の気持ち（好き、嫌い、やる、やらない、やりたい活動の名前等）を言葉で表現する。

『コミュニケーション』

- 簡単な質問（2択や「はい」「嫌」等）に的確に答える。
- 簡単な報告や自分の要求を教師に伝える。



☆活動内容

- 様々な課題の中から今日取り組む課題を選び、自立活動の時間割を作成する。

課題：給食のメニューを見ながら好き嫌いを伝える、教師の名前と顔のマッチング、

SST（ソーシャルスキルトレーニング）、口の体操、絵本の音読練習（声量の調整練習）、漢字プリント、ぬり絵、スクラッチアート等

- 1つずつ課題に取り組み、終わった時は「できました」、難しい時は「教えてください」「手伝ってください」と教師に伝える。



☆経過・成果

それぞれの課題の内容に見通しが持ててきたこともあり、教師の促しがなくても自分の得意な活動を選ぶことができるようになってきました。時間割の終わりに漢字プリントやぬり絵等の好きな活動を設定することで、期待感を持ち、集中して取り組むこともできています。

近くにいる教師には、課題が終わると「できました」と自分から伝えることも増えてきました。また、離れていても「手伝ってください」と声を上げることができるようになりました。今後は更に、教師の顔と名前とのマッチングや教師の近くまで行って伝える練習を通し、「伝える相手」をしっかり意識して、言葉をかけられるよう取り組んでいきたいと考えています。

好きな活動を選ぶ時、教師の言葉に惑わされて自分の思いを的確に伝えられないことがまだまだ多くあります。質問の中のどの部分がわかりにくいのか、どのような問いかけをすれば理解しやすいのかを探りながら、Aさんが「伝えたら、やりたいことができた」と感じ、伝えることの楽しさや大切さを感じ取れるような取り組みを進めていきたいと考えています。

【2ブロックの取組】

3年生 Bさんの事例

☆ねらい

『環境の把握』

- 手元を注視して、対象物を操作する。
- 集中して課題に取り組む。

『身体の動き』

- 左下肢が外旋位で、踵をつけて歩く。
- 体幹を伸展させた座位保持の時間を長くする。

『コミュニケーション』

- 発声や身振り、カード等のコミュニケーション手段を使って、適切な方法で自分の意思や要求を伝える。

☆活動内容

- モール入れやビー玉入れなど、様々な手指操作の課題を設定して取り組む。
- 自分の意思や要求を、言葉で確認しながら選択肢のカードから選べるようにする。
- ROM-Ex. を下肢全体に行い、左足関節には特に重点的に行う。歩行時は左下肢が内旋しないよう、右下肢を高く上げて歩くように声をかけて促す。
- 体幹を鍛えられるように、筋力トレーニングや膝立ち位などに取り組む。

☆経過・成果

目と手の協応動作や手指の巧緻性を高めるために、モール入れやビー玉入れなどの手指操作の課題を設定して取り組んでいます。手指の感覚で操作し、自ら手元に注視をすることが難しかったですが、教師の言葉かけや継続して学習に取り組んでいくことで手元を見て対象物を操作できるようになってきました。

身体面への取り組みとして、登校後の自立活動や自立活動の抽出指導で、下肢全体に ROM-Ex. を行ってきました。特に歩行時に内旋し、踵が着床しない左下肢は重点的に行ってきました。ROM-Ex. 後は改善がみられ、左下肢が中間位または外旋位で、踵も少し着床できるようになってきました。

また、筋力トレーニングや校内歩行、階段昇降にも継続して取り組みました。階段昇降では、左脚をまっすぐに踏み込むことや左脚により体重がかかるように介助しながら昇降しました。Bさんも歩くことが大好きなので、意欲的に取り組んでいました。

コミュニケーション面では、「コンコン。」と発声したり、手を振ったりして人を呼んで要求を伝えようとしてくれます。人との関わり方が広がり、自身の要求を適切に相手に伝えることができるように、自分がしたい遊びや行動をカードの中から選んで相手に伝える取り組みをしました。当初はカードをよく見ずに選んで渡してしまい、自分のしたい事を伝えることができませんでした。しかし、言葉で確認しながら選択肢のカードを確認していくと、複数の選択肢のカードの中から自分のしたい事や行動を選んで渡すことができるようになってきました。繰り返し行うことで自信をもってカードを選べるようになってきました。コミュニケーションの幅や交友関係を広げていくためにも、今後も継続して取り組んでいきます。



